

障害者と知り合い、相手を思いやろう」と、横浜青年会議所・地球の子供たち委員会が主催する「であい・しあわせ・みつけ隊」の二回目が二日、みなとみらい地区で行われた。今回のテーマは「街の中のやさしさ探し」。子供たちは、障害者にとってやさしい街とは何かを学ぼうと、屋外へ飛び出した。

「このポストの入れるところは位置が高すぎる」。ある子供は、郵便ポストを指さして「やさしくないね」。逆に、スピードの緩やかな回転ドア、障害者用エレベーターなど「やさし

「であい・しあわせ・みつけ隊」

い」場所も見つけ、カメラに収めた。坂道や段差のあるところで実際に車いすに乗る。川島小六年の増田明之君（こ）は、「坂道を車いすで動くのは本当に大変だ」ということがよくわかった。長は、「プログラムも二回目に収めた。坂道や段差のあるところでもあって、子供たちは自然に障害者の方たちと接することができていた。想像したよりも子供たちが、街の中のやさしさについて敏感になっ

障害者にやさしい街 浜

子供たちが体験学習 横

た」とその大変さを肌で感ずるのが何よりうれしい」とした様子だった。写真。話していた。

午後からは、海上保安庁の巡視船「やしま」に体験乗船。青空の下、子供たちと障害者たちは互いの交流を深めた。

同委員会の夏見裕貴委員 込みで行われる。

